



西胆振消防組合伊達消防出初式

1月6日、だて歴史の杜カルチャーセンターで、「西胆振消防組合伊達消防出初式」が行われました。

この催しは、消防職員や消防団員が士気を高め、職務遂行への決意を新たにし、また、今年1年のまちの安全・安心を守る団員に対して市民に理解を深めてもらうことを目的に毎年開催される恒例行事で、職員・団員225名が参加しました。

当日は厳しい冷え込みの中で開催され、消防職員・団員の威風堂々とした分列行進や、西胆振消防組合管理者の菊谷市長や来賓による観閲が行われました。



寒さにも負けない一糸乱れぬ行進

無火災の願いを込めて放水が行われました

第40回伊達市小中学生書き初め大会

1月9日、カルチャーセンターで「第40回伊達市小中学生書き初め大会」が行われました。

この新春の恒例行事には市内の小・中学生123名が参加。日頃の練習の成果を発揮し、指定された課題の文字を、真っ白な画仙紙に筆を走らせました。

太筆に墨をたっぷりと含ませ、力強く文字をしたため子どもたちは一枚一枚に気持ちを込めて、より高い完成度の書を書きあげました。



ひと筆を力強く画仙紙へ

錦橋完成を祝い、くす玉が用意されました



「錦橋」渡橋式

12月20日、錦町と山下町を結ぶ「道道南黄金長和線」の錦橋がこのたび完成し、地元自治会の実行委員会が主催する「渡橋式」が行われました。

錦橋は、北海道が昭和25年建設の旧橋を撤去し、50年確率で発生する大雨災害に対応できるよう河川護岸工事と一体で進められ、事業着手から約15年の時を経て完成を迎えました。渡橋式では、新橋の完成を祝い神事が執り行われ、式典に参列した関係者や周辺住民による「渡り初め」も行われました。

京王幼稚園幼年消防クラブ 「火の用心もちつき」

平成8年から伊達市幼少年婦人防火委員会の事業の一環として、幼年期の火に対する正しい知識を身につけることを目的に、「火の用心もちつき」が市内の一部幼稚園・保育所で行われています。

1月18日、京王幼稚園でこの行事が催され、消防職員が見守る中、法被を着た幼稚園児全員が餅つきを楽しみました。また、消防職員が行った迫力ある餅つきに園児は大喜び。杵を振り下ろすと同時に「よいしょ！」と声を揃えました。



園児達のかけ声が飛び交う中、もちつきが行われました

静寂な空気の中、初打ちを見つめる参加者達



刀鍛冶伝統行事「初打ち」

1月6日、黎明観刀鍛冶工房で、「初打ち」が行われました。

今年一年の安全を祈願し、仕事場を清める新年の伝統行事で、市民ら50名が参加し、神事が厳粛に行われました。神事後、渡辺惟平刀匠が炉に火を入れ、弟子の菊地伸拓さんらと熱した玉鋼を鋸で打つ今年最初の作業が行われ、打つたびに飛び散る真っ赤な火花と迫力ある音に、見守る参加者から歓声が上がりました。



新春みんなで百人一首

1月20日、武道館で、「新春みんなで百人一首」が行われました。

この催しは、伊達政宗歌留多倶楽部が主催する恒例行事。お正月の風物詩である百人一首を通して、子どもから大人まで幅広い年代の交流を図ることを目的に開催されています。

開会式では、同倶楽部代表の板谷一雄さんが「勝ちにこだわらず、最後まで元気にやりましょう」と挨拶し、競技開始。

『礼に始まり礼に終わる』の精神のもと、14チーム48名の参加者は、対戦相手に一礼し、真剣な面持ちで読み手の声に耳を傾け、木札を取り合いました。



読み手の声に集中して木札を取る参加者達